

# サウデ教会女性部会報

2013年 12月 № 277

## 会報50周年記念号



敬老礼拝に出席の敬老者の方

● 目次	ページ
● 巻頭言 「神の教会の姿」	②
● 丹羽昭男師	②
● 会報50周年記念	④
● 奉仕者に聞く 浅井津哉子	⑤
● 読者に聞く 菅原ミヨノ	⑥
● 特集 「救いのあかし」	⑧
● 出山茂治・富美子	⑧
● あかし	⑪
● 宮谷テル子	⑪
● 加納信子	⑫
● 国分広子	⑭
● 集会案内「家庭集会」丹羽美香	⑮
● おいしくけんこう	⑰
● おためしあれ	⑱
● 報告	⑱
● お知らせ	⑱
● 個人消息	⑳
● あとがき	⑳

### 巻頭言

丹羽昭男師

#### 「神の教会の姿」

使徒行伝 二章四十四節

#### 「1」序論

教会に女性が誕生して50年。その間にはいろいろな移り変わりがあったことであろう。ただ、変わらないことは、今日も女性が教会の中で大切な役割を果たしているということである。これから、ますますそのように歩んで欲しいと願う。

その女性会を含めた教会全体の姿について、「どうあるべきか」ということを、初代教会の様子を見つめ示されよう。

#### 「2」教えを守った

(1) 礼拝を第一に  
新しく誕生した教会は、第一に、

「礼拝をささげた」  
教会にとって最も大切なことは、礼拝することである。聖日ごとに一人ひとりが教会に集まって感謝と喜びの礼拝をすることである。礼拝は、私たちがなすべき最高の奉仕である。だから、何よりも優先しなければならない。



#### (2) メッセージ

礼拝の中心は「メッセージ」である。使徒たちは神から御言を聞き、そして、語った。メッセージをする者は、自分の意見や考えを語るのではない。神から御言を与えられて、神に代わって語らなければならない。

### (3) 聞く者

メッセージを聞く者は、神の御言を聞いた。政治や経済や社会のことではない。神のメッセージが聞きたかった。それが、自分にとって耳が痛いことであつても、厳しいことであつても聞きたかった。神の御言に飢えていたのである。

### (4) 御言を守った

そして、その聞いた御言を守った。従った。毎日の生活の中でその御言に従って生きた。

これこそ「証し」であり、「伝道」である。

「クリスチャンはこのように生きることが出来ます」と、周りの人々に示すことが出来る。



### [3] 信徒の交わり

教会の一人ひとりには「信徒の交わり」をしていた。

そうすることによって、お互いに神から受けた恵みを



1963年度、それまで単一「サンパウロ教会」

と親しまれた名を「サウード教会」と改め、作間泰典師を主任牧師として迎える。ほどなく、婦人会が発足し、100名以上の会員をもち、さまざまな会や集会が盛んに行われるようになった。そんな折、同年5月に第一号の婦人会会報が発行されることとなった。その目的は、「当婦人会の報道機関として会員の動静をお知らせし相互の連絡を図る。さらには、各自の信仰向上に、また福音の証しのために有益なものとして」と、作間牧師が記しておられる。内容は巻頭言と諸報告にとどめ、毎月発行。時折、「あかし集」と題し、ふた月併合の小冊子を。

80年代以降からは、あかしも通常掲載されるよう

語り合った。そして、お互いの信仰を高め、強めていった。さらに、お互いに愛し合い、助け合った。必要なものがあれば喜んで助けた。悲しいんでいる者と共に悲しみ、苦しんでいる者と共に苦しんだ。



### [4] 祈りをしていった

教会の一人ひとりには、「祈り」をしていた。

教会は礼拝と共に祈りも大切である。自分の信仰・霊性の成長のために祈ろう。そして、他の人のために、教会のためにもつと祈ろう。神の御業は祈り続けるところに起きる。あなたの祈りによって、神の御手が動くのである。

来年も5年後、10年後も、この変わらない福音の真理と共に仕え合う女性会として進んで欲しいと思うものである。

になり、充実した紙面作りが成された。

時代は、手書き印刷から活版印刷へと変わり、さらにワープロ、そして現在はパソコン (computer) へと、その様も変化してきた。また2002年からは

美香師によってルビが打たれるようになり、さらに読みやすさが加わった。

長年にわたり掲載された膨大な証しには、個人の信仰表明や恵みの分かち合いに留まらず、時の日系社会の移り変わりが垣間見れる。また、日本移民の歴史が生き生きと映し出されているものも多い。移民という家族の歴史を偲ぶとき、神のくすしき御業に感謝する人は少なくないのだろう。従って、同会報で、「移民特別号」と称され、特集されたことも必然と言える。

- \* 1978年「移民70周年記念号・移り来て」
- \* 2008年「移民100周年記念特別号」

# 祝！ 50周年

奉仕者に聞く



浅井津哉子姉

## 「神の愛」

奉仕期間 2000年〜2008年

最初は担当者の補助として奉仕を始めましたが、何も分からず大変でした。その頃は手書き構成でしたので神経を使いながら何回も書き直しをしたり、他教会の方々にワープロ打ちを依頼しに行ったりと、とても手間と時間を要する作業に苦労しました。美香師が責任をもたれてからは、原稿の打ち込みを手伝っていました。美香師は会報の名称を「婦人部」から「女性会」と変え、中身も一新。より女性らしさを生かした会報になったと思います。私も未熟ながら新たにパソコンでの構成に取り組みました。

強く惹かれた私は、日本から同書を取り寄せ何度も読み返していくうちに、「イエス・キリストは神なのかも？」と思うようになりました。そこから礼拝へと導かれ、そのとき聞いた讃美歌に感動し、震え、涙が止まりませんでした。その三カ月後の1983年11月20日、心を決める為に受洗いたしました。それから丸30年。いくつもの試練を通されながらようやく今になって、神の無限の愛が素直に分かるようになりました。日常の問題は尽きませんが、祈りによって平安がいただけるようになったことは本当に幸いです。

これからの会報に対しては、とくに若い世代への伝道用として用いられることを期待しています。また、日語教会の責任として、日本語にこだわった紙面作りを続けて欲しいと願っています。

試行錯誤の中、うまくいかず困り果てることが多々ありましたが、神の御業を求めるうちに深い祈りへと導かれてゆきました。構成にあたっては、読めば読むほど自己の思いが及ばなかったことに気付かされ、神の愛が内に響いてきたことを忘れることは出来ません。奉仕のひと時は、特別な神とお交わりの時でした。証しも節目々々で依頼を受け書かせていただきましたが、自分の感じたことを書くのに精一杯で、やっとこの頃その恵みから神の愛を見出せるようになりました。

もともと懐疑的で「神なんて…」と思いながら、敗戦後「やっぱり神はいない」と結論付けていた私ですが、ボランティアで集ったガン病院で多くのクリスチャンと交わりをもっていたある時、その中でも際立った信仰をもっていらしたサウード教会の姉妹から、一冊の本(死の谷を過ぎて)を勧められ読みまし

読者に聞く



菅原ミヨノ姉

## 「神の恵みを伝える」

「これを読んでみてください」と折にふれ、どんなにでも気楽に声をかけ、いつもカバンに入れるようにしてある週報や会報、教会から発行されたパンフレットなどをお渡しして、私なりに他者に伝えていくことを心がけてきました。私は、「証しを…」と言われても人前に立つて話すのが苦手です。でも何とかして伝えたいという気持ちでお配りしています。私の父は文化植民地の第一期入植者の一人で、1930年に単独で渡伯し、原始林を切り開き家を建てるなど、当時はずいぶん苦労したようですが、その2年後には家族8人を呼び寄せ、子供教育の為にと、

中心地に日本語とポルトガル語の学校を開校させました。その時の女の先生が日本で神学校を出られた方で、聖書の御言や賛歌を教えてくださいました。そのお陰で私は幼い頃より福音にあずかり、今あることを思い知らされています。

その後、結婚し、一家でサンパウロに越して、導かれるままサウデー教会で家族共々に受洗しました。目にも止まらない小さき者を、神様は憐れみによって救ってくださいましたので、感謝をしてもさったのですから、感謝をしてもしきれません。



それから、すでに59年が経ちますが、今日まで守り抜いてくださった神様の恵みを一つ一つ思い出す日々、今が一番幸せだと感謝にたえません。優しく労り世話をしてくれる家族がいて、何よりすべてをご存知ですべてを備えてくださっている神様が

られます。その恵みに、十分ではないけれどありのままの私でこたえてゆきたいと願っています。伝道はその一つだと思つて、これからも一人でも多くの方々に福音をお伝えできるよう願ひ祈つております。

「会報によせて」

小原知子

50周年という節目に、編集員として携わる事となりました神様の恵みに感謝いたします。

当教会はいろんな意味で特異な教会です。だからこそ神様の満ち溢れる恵みと希望とが、さらに輝いているのではないのでしょうか。それら皆様のお証しを一つでも多く会報にまとめ、広くお届けできたらと願ひ、これからも祈りつつ励んでまいります。

さらなる神様のご愛と祝福を得て、伝道に豊かに用いていただけますことを信じ、感謝いたします。



## 特集

### 救いのあかし

### とくしゅう



信仰の道へ導かれた

きっかけから現在について、

お話をうかがいました

でやましげはるけい 下山茂治兄 / 下山富美子姉 (以下、敬称略)



受洗日1982/11/21

富美子\*義母は亡くなる一年前に白血病と分かる

\*自宅、作間牧師夫婦や信徒の皆さんの訪問を受け、慰められ喜ぶ義母の様子に、交わりの中に愛を感じた

\*その後、強く教会行きを望む義母に同伴する形で夫と共に礼拝へ

\*その半年後、牧師から洗礼を勧められる

「夫と一緒になら」と答へ、夫に相談

\*カトリックの教理は知ってはいたが、興味はなく、以前から孫達を連れ教会へ行く母の送迎をしても中へ入る事はなかった。しかし、家内の願いと母の思いに応えるため受洗することに

富美子\*義母はとても喜び、安心した様子だった。\*その時、神様から愛を持って何事にも接する大切さを示され、いつも心にあつた

現在では、

富美子\*骨粗鬆症と9年前に発症したパーキンソン病により教会へ行けなくなったが、悪化するほどに神様の恵みと愛を感じる。\*神様は家族や教会の皆様を通して、愛し守ってくださいている事を教えてくれる。いつも優しく何でも心からしてくれる夫

に、教会の皆様の祈りに、嬉しく感謝

\*DVD・CDでメッセージや証しを聞くの

が楽しみ。何度も聞くうちに心が安らぐ

\*礼拝や祈禱会などの時間に心を併せ、聖書を

読み、信徒の皆様の名前を挙げて祈る

\*困難な生活の中、なんでもイエス様により

頼み、なんでも感謝する毎日

\*日々、聖書を読み祈る家内の姿に、主にあ

つて喜んでい

\*神様にはご計画があつて家内に病気を与え

たのだと信じ、すべてをお委ねしている

\*31年間の信仰生活の歩みは、家族に、

そして主に仕えてきた家内の信仰の支えが

あつたからこそ

家内の介護を苦労とは思わない

\*日々与えられる恵みを見つけ、感謝している

祈りの課題

茂治 \*家内の病気の癒しを

富美子 \*夫の健康と、親戚の救い

先生方のご健康と、教会の祝福



義母の信仰を見て後に做った富美子姉。「神様を信

じていれば、守つてくださるから心配いらない」が

口癖だった義母は、「大らかな人で、いつも聖書を読

み、賛美を歌い、何事にも『ありがとう』と感謝して

くれました。そんな義母が、願

い喜び行く教会には「愛」が

あると感じ、導かれるままに

信仰をもつた。茂治兄もまた、

「両親と仲良く、心から介護

してくれた家内に感謝」と、そ



夫婦で同日に洗礼を受け、長年揃つて教会生活を

送ることができた恵みにも深く感謝されている。

そんな中、教会会計を任された茂治兄は、

「ただ正直に責任を持つて」と、

誠実に続けてこられた。

また、どんな小さな事にも

思いを注ぐ富美子姉の愛の

心は、大好きだった台所

奉仕にも大いに注がれた。

「姉妹方と和やかに賑やかに

ご奉仕ができることが楽しみでした。

そして、皆さんに喜んで食べていただけ嬉しかつ

たです」と、どんなことにも喜びをもつて忠実に仕

えておられた。だが、病を負つて、「世話好きな私

が、病に苦しみ、人の世話にならなければならず、



しない痛みを通し、「さらにイエス様に近づけました」

と力強く証しされた。

今は、ご夫婦共に、「祈れることが有難く嬉しい」

と、恵みを数える幸いな日々を送られている。

テサロニケ第一 五章 十六〜十八節

いつも喜んでいなさい。

いつも祈りなさい。

すべての事について、感謝しなさい。

これが、キリスト・イエスにあつて、

神があなたがたに求めておられることである。





### イエス様との出会い

宮谷 テル子

モジダズ・クルセースで、  
場を経営していたとき、  
が自動車事故で怪我をし、  
に、その怪我がもとで心臓、  
患ってしまいました。また、  
その頃、養鶏も不況となり手放

### イエス様との出会い



信子 加納

い切ってお世話になることにしました。義母は日本で  
校時代にクリスチャンになっていましたし、  
が買ってくれたし、今思うと神様の恵みに  
責任も重く感じていました。ただ、土地は  
です。でも、町の生活に慣れるかの心配と、  
1980年11月8日、サウーデ教会に来ました。  
一家は守られたんだと感謝しています。

上の子供が14歳、下は7歳までの5人と義父母が  
おり、これからどうしたら良いかと心配していました。  
時に、サンパウロからサウーデ教会の山本姉が訪問  
してくださいました。山本ご夫婦と主人は同船者で、  
いつも何かと気にかけてくださっていたのです。そし  
て、「教会の管理人にどうか」と言ってくださり、思

何でもさせていただきました。慣れていなかったの  
最初は大変でしたが、大勢の兄弟にとっても良くして  
いただき、大変お世話になりました。作間牧師も毎日  
祈って私たちの信仰の導きをしてくださいました。  
そして私は、翌年の1981年8月21日に洗礼を  
受けました。主人もその一年後に受洗し、喜びの  
毎日でした。しかし、その後、頼りにしていた山本兄

が亡くなって、続けて主人も亡くなりました。私は  
すっかり気落ちして、このまま神様を信じていいのか  
どうか迷ってしまいました。

ある祈禱会で祈っている時です。

白い衣を着た人が上から下りて来るのを見たのです。  
その時、はっきりと確信しました。

神様は私に信じなさいと見せてく  
ださったんだと思います。それから  
は、もつと真剣に祈るようになりま  
した。神様がいつでも心の中にい  
てくださることを信じています。

後に子供たちもみんな洗礼を受け、  
正しい道を歩いてくれますから感謝です。

詩篇 五十篇 十五節

悩みの日にわたしを呼べ、わたしはあなたを助け、  
あなたはわたしをあがめるであろう。



### イエスを信じ歩む道

信子 加納

冬はとても寒い、山口県の  
日本海寄りの小さな農家に  
生まれた私は、13歳の時、  
兄家族が南米行きの手続き  
をしているのを知って「私  
も行きたい」と頼んで連れて

来てもらいました。両親や皆に反対されましたが、  
雪が降る寒い冬が嫌いだっただけです。ブラジルは一  
年中暖かく、やっぱり来て良かったと思えました。  
結婚し、子供が学校へ行くようになって、田舎から  
町に住むようになりました。その頃、小原テレーザ姉  
(阿部カルメン先生の妹さん)と出会って、教会  
の話しを聞きました。テレーザさん家族は、毎週日  
曜日、ジアーマ教会の礼拝に行かれるとのこと、  
私達家族も誘ってくださいました。先に3人の子供  
たちが日曜学校へ行くようになりました。

商売をしていた私は日曜日には行けないので、しばらくしてから家庭集会へ行くようになりました。そこで清水先生から聖書を学ぶうちに少しずつ神様とイエス・キリストのつながりが分かるようになりました。1992年、30年ぶりに日本へ帰国。懐かしく嬉しいはずなのに、あまりの変わりように戸惑うばかり。夫の実家に帰って、義姉から言葉の使い方を注意されてシヨックでした。自分では気がつかなかったのですが、ポルトガル語の混ざった日本語で通じなかったのです。それから、日本で働くことになり、日曜日に教会へ行けることが何よりも嬉しかったです。そして、1993年10月3日、神奈川県寒川教会の長谷川牧師から洗礼を授けていただきました。その前の「洗礼準備会」の学びで、時間をかけ教えてくださいました。あるとき、マタイの福音書を学んでいると、イエス様は、貧しい者や知恵のない者、また迫害

や差別を受けている人達のために来てくださったことを知りました。そのとき、昔から抱いていた惨めに思う気持ちが救われて、心の傷がいやされ、初めて自分の中でイエス様を感じる事ができました。そして、受洗の決意をいたしました。そのように導いてくださった先生と教会の皆様には感謝しています。ブラジルへ帰ってからジアデーマ教会へ。その後サウデー教会へ転入させていただきました。神様と聖書に出会って今日まで守られたこと、また、神様からいただく救え切れない恵みに感謝いたします。長く関節痛に苦しんだ時も、メッセージで聞く御言の捉え方がこれまでと変えられ慰められました。今では、丹羽先生、美香先生から学ばせていただける時をたくさん与えられていますこと、さらには教会の皆様にも心から感謝いたします。



## 感謝にあふれ

ひろこ 子  
こぶん 国分

この頃のテレビを見ていますと女性の乳ガンの多いこと。私のお母も昨年の6月に乳ガンと診断され3回も手術を受けました。どんな病気でも手当てが早いと治りも早いよ

うですが、娘の場合、かなりの悪性で、しかも隠れた場所にあつたため、過去2回の手術では発見できませんでした。そのせいで摘出するのに遅れてしまったのです。無事にガンは全部取りきれたそうですが、娘は一気に弱ってしまい、みるみるうちに髪の毛も抜け落ちてしまいました。気分がいつも悪く、「何も食べたくない、何も欲しくない」と、ただ吐き気を訴えるだけでした。3回も切ったその傷口は硬くなり手が上がらなくなっていました。また、ガンの転移を恐れ強い薬を飲むせいで、とても手足が痛いそうです。



病院からは、生物や野菜、果物など、とにかく全部よく火を通して食べることを。太陽に当るのは15分だけ。金物で爪を切ってはいけません。などと細かく指導されて、それはそれは大変な闘病生活です。どんなに辛いことか、ただただ忍耐の日々です。

私は、神様に助けてくださいたいと真剣に祈りました。この病気に勝つことが出来ますように。主の御心でしたらお助けください。と、祈って祈って毎日毎日待っただけです。ある日、主の御愛のうちに御言が与えられました。「なんでも祈り求めることは、すでにかなえられて信じて下さい。そうすれば、そのとおりになるであろう。」(マルコ十一・二十四) ありがとうございませう。信じます。と祈りました。今も娘はリハビリに励んでいます。手の痛みに耐えながら洗濯を干しきることを日課として一生懸命やっています。家の事も精一杯しています。少し

無理をしているのではないかと心配になります。ですが、そんな私に娘は、「ママ、泣いて治るなら泣くわよ。でも違うでしょ。神様が医者も薬も備えてくださって、ガンを取りきることが出来たんだから、感謝してさえいたらいいのよ。感謝という言葉だけで生きられるよ」と言いました。本当です。主に感謝します。主の憐れみを感じます。主は生きておられる。ありがとうございます。

教会の皆様にも祈っていただき、

ありがとうございました。



愛賛歌「主われを愛す」  
主われを愛す 主は強ければ  
われ弱くとも 恐れはあらじ  
わが主イエス わが主イエス  
わが主イエス われを愛す

出席されるようになり、今まで出席されていた御高齢の姉妹方（白井・小野田・菅原各姉）が出席不可能となって寂しい時だったので、皆さん大変元氣付けられました。集会後の茶菓の時間は楽しいお交わりのひと時でした。

大体の出席者は7〜8名でした。



大園家集会 毎月 第3火曜日 午後2時より  
「伝道の書」の学びを今年終了。「伝道の書」で教えられたことは、神様から離れて平安を見つけようとあらゆる肉の欲を求めた人が、そこには空しさしかないことを悟った。神なしの生活がいかに実のないものであるか、財産・知恵・名声・快樂など全ては空しい。人はこの世ではなく、神様に心を向ける時にだけ、真の幸福を見出せる。すなわち神様を敬い、その命令（御言）に従うこと。

## 家庭集会

本年度の家庭集会について  
丹羽美香

一年の何と短いことか！と、思われる今日この頃です。本年度の女性部主体の各集まりも11月末をもってすべて終わりました。心から主と出席なさった方、また、家庭を開放して下さった方々に感謝いたします。

今年度の家庭集会は次の二箇所でした。

藤木家集会 毎月 第1火曜日 午後2時より  
「マルコによる福音書」の学びと「あかし」の時をもち、司会は出席者が順番でしました。

この集会に藤木家で働いておられる畠中美恵子姉が、信仰の交わりに加えられたことは大きな収穫でした。また今年受洗された山内佳子姉も

これこそ人間の本分であることを学びました。この学びは二年間に亘りました。

この集会では証しあり、大園兄の漢方の話ありで色々ためになりました。同兄は「髪の毛につける液」や「美肌効果液」、その他、多種の漢方液を趣味で作っておられます。

集会後は大園兄姉の手作りや出席なさる姉妹方の持ち寄りの茶菓が盛り沢山で霊肉とも満腹でした。いつも大園兄の歓迎をいただき感謝でした。

バスで40分余りかかりますが楽しいお交わりでした。このジアデーマ地区の集会には山田姉・長谷川姉・山口姉も出席されて感謝でした。

来年は、その他の方々もどうぞこれらの家庭集会に是非出席されますよう心よりお勧めいたします。







## おためしあれ!

### ヒザの痛みの対処法

ヒザが痛い…、立ち座りが苦痛、外出ができない、  
転んで思わぬケガをする、などなど…



痛みの原因はさまざまですが、多くは筋肉の衰えによるヒザへの負担が  
増したことがあげられます。ここでは、その予防法をご紹介します!

#### \*\*\* 予防法 \*\*\*

- ① 体重を減らす
- ② 身体を冷やさない (= 血行を良くする)
- ③ 靴底の柔らかい履物をはく (= ヒザの負担を軽くしてくれる)
- ④ 筋力をつける

年齢による足の筋力の低下は、後ろに曲げる筋肉に比べ、  
前に伸ばす筋肉 (太ももの前) のほうが衰えやすいそうです

#### \*\*\* 太ももの前の部分の筋肉を強くする体操 \*\*\*

◎イスに座って行います

- 1 片足を前にまっすぐ伸ばす (つま先は上に向ける)
- 2 ゆっくり戻す ■ 反対の足も同じように

◎最初は、ヒザが曲がってしまっても大丈夫です

◎続けていけば筋力がついて、伸ばせるようになります

◎目標は、片足につき続けて20回です!

どうぞ、お元気で!



### おいしく けんこう

咳止め効果抜群



### ハチミツ だいこん

季節をとわず乾燥しがちなブラジルでは、

すぐに喉の調子が悪くなったりしますね

咳が止まらなくなる…、なんてことはありませんか?

そんな時は、ハチミツ大根がオススメ!

大根の辛み成分には抗菌作用があり、

ハチミツを加える事で炎症を和らげる効果もあります



#### \*\*\* 作り方 \*\*\*

1 cm角の短冊形に切った大根を密封容器 (ビン) いっぱいに

詰めて、ハチミツをたっぷり注ぎ2~3時間置くだけです

おちょこに1杯飲むだけで、効果があります!

甘すぎる場合は、お湯でうすめて飲んでください

風邪による喉の痛みにも効果があります

ぜひ、おためしください!



\*10月21日

洗礼式

栗林俊視兄

(在宅にて)

\*11月10日

受け入れ式

松茂良達子姉

洗礼式

松茂良興文兄

今年、受洗者と共に多くの方々が無事お集まりいただき、新入会員が増えました。さらなる主のお恵みと祝福がありますように。

2014年度

お知らせ

2014

\*新年聖会(伝道局主催) 1月5日(第1日曜)

サウデー教会にて 午後2時30分

ご用者/丹羽昭男師



\*希望の家 奉仕 2月

例年のごとく、食事作りのご奉仕を予定しています。当日のお手伝い、ならびに献金・献品をよろしくお願ひします。詳しくは追って週報でお知らせします。

\*世界祈禱日(連盟婦人部主催) 3月7日(金曜)

\*連合女性会 例会 3月30日/8月31日

\*一日研修会 6月19日(木曜祝日)

2014年度は、連合女性会発足50周年と、研修会40回目の記念の年です。どうぞ覚えてお祈りください。なお、連盟婦人部への代表

者は、西川敬子姉と菅原アリス姉です。

\*サウデー教会の各集会は、2月から始まります。祈りつつご参加ください。

2014 個人消息 しょうそく 2014

\*召天者

久保克己兄	8月30日	(享年90歳)
木村秀子姉	9月11日	(享年94歳)
山内千代姉	9月25日	(享年72歳)

あしがき



今年3回目の会報をお届けできましたこと、大変嬉しく感謝いたします。

今年、新しい試みとして「救いの証し」をお伺いし、まとめてきました。皆様、快くお答えいただき、素晴らしい主のご愛とお恵みを分かち合ってください。投稿してくださった方もそうですが、聞きながらあまりの感動に涙が溢れたり祈りに導かれるなど、魂が揺さぶ

られる霊的なお交わりへと引き込まれてゆきました。大いに恵まれ励まされ、また主の御業に感嘆いたしました。皆さん様々な人生を歩んでこられています。皆様に御言葉を握り締め、全てを受入れ全てに感謝し祈るその信仰生活のお姿に、信仰の先輩として心から尊敬し、その後ろに付きたいと願わされます。

さて、同会報を多くの教会

内外の方が伝道に用いてくださり、遠く日本へも送られていると聞き大変有難く思います。これからもお役に立てていただければ幸いです。

それでは、迎えます一年が、皆様にとりまして実り豊かな年となりますように。ご健康をお祈り申し上げます。(小原)

教会ホームページより会報や礼拝メッセージ  
教会の様子をご覧いただけます  
<http://saudekyoukai.jimdo.com/>